

指標 7.3.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 7.3.1 エネルギー強度（GDP 当たりの一次エネルギー）

ターゲット 7.3 2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。

ゴール 7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

定義及び根拠

○ 定義

エネルギー強度は、実質 GDP（1 兆円）あたりの一次エネルギー国内供給量（PJ）と定義する。

○ 概念

一次エネルギー国内供給量とは、国内に供給される一次エネルギー（石炭、石油、水力などの自然に形で存在するエネルギー）量である。実質 GDP（国内総生産）は、経済規模の尺度である。

○ 根拠及び解釈

エネルギー強度は、単位あたりの経済生産を生み出すためにどれだけのエネルギーが使われているかを示すものである。強度が小さいほど、経済生産に対し使用されるエネルギーが少ないことを示す。

データソース及び収集方法

一次エネルギー国内供給量は総合エネルギー統計を参照する。
実質 GDP は E D M C エネルギー・経済統計要覧を参照する。

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

エネルギー強度（EI）は、次の式を使用して計算できる。

$$EI = \frac{\text{一次エネルギー国内供給量（ペタジュール）}}{\text{実質 GDP（1 兆円）}}$$

○ コメントと限界

なし

データの詳細集計

なし

参考

総合エネルギー統計

https://www.enecho.meti.go.jp/statistics/total_energy/results.html#headline1

EDMCエネルギー・経済統計要覧。

<https://edmc.ieej.or.jp/>

データ提供府省

経済産業省資源エネルギー庁

関連政策府省

内閣府、経済産業省資源エネルギー庁

担当国際機関

国連統計部（UNSD）、国際エネルギー機関（IEA）